

よりよい教育活動を探る

校長 相川 保 敏

校庭の木々から蝉の鳴き声が響き、いよいよ子どもたちが楽しみにしている夏休みがやってきました。この1学期は、子どもたちの明るく元気な声が校内の至るところから聞こえてきました。本校に対する保護者の皆さまからのご理解とご協力の賜物であると感謝いたします。

本校の子どもたちは、日々友と対話し、意見を交わしながら、多様な価値観に触れ、自らの考えを深めています。その過程で、他者を尊重する心や、共に成長する喜びを分かち合っています。このような学びの積み重ねにより、社会の中で自分の力を発揮し、人となりがりながら歩んでいく土台をつくっています。

一方、教員は子どもたちが主体的に学べるよう、そして他者とのかかわりを大切にしていけるよう、教育活動の質の向上に日々努めております。その一環として、一人一人の教員が自分で工夫したり、学年で協力したりしながら取り組んだ成果をこのたび「研究紀要」としてまとめました。これは、単なる実践記録ではなく、日々の授業の中で見えてきた子どもたちの変化や成長、そこから得た新たな気づきや課題を分析・考察したものです。

「研究紀要」の配信を当初は6月としておりましたが、一か月遅れとなってしまう申し訳ありませんでした。下記の【研究紀要閲覧方法ならびに留意点】を参考にダウンロードしていただきご覧ください。

概要をご説明すると、1年生は学年の担任がそれぞれ担う教科を決めて授業交換をし、学年全体で子どもたちを育てていけるような取り組みを行いました。こ

れは、学級担任制から、学年担任制への移行とともに、教科担任制も見据えた取り組みになっています。また、2年生の生活科も、3年生の英語によるプロジェクト学習も、学級の枠を超えこれまでの取り組みを発展させた実践になっています。4年生は学級単位での取り組みになっています。よりよい体育指導を探った実践と現在多くの学校で取り組まれつつある「自由進度学習」を漢字学習で実践しています。5年生は、学力の差が顕著になりやすい算数での習熟度別授業を、6年生は、小グループで興味のある国の料理を調べて献立をつくり、プレゼンを行い、全校投票で選ばれた国の料理を給食業者と折衝して給食として提供してもらったプロジェクト学習を行っています。その他にも、校外学習、海外語学研修、名フィルとの共演コンサートも取り上げています。

研究紀要の作成はこれまでの教育活動を振り返り、課題と成果を整理する貴重な機会となりました。また、それを言語化し共有することで、学校全体の教育力の底上げにもつながったと考えています。今後もこのような実践研究を継続的に行い、子どもたちのよりよい成長に結びつけてまいります。

夏休みを利用して、お時間があるときに他学年の活動にも目を通していただき、ご家庭での話題の一つとして、ぜひお子さまからも感想や意見を聞いていただければ幸いです。

【研究紀要閲覧方法ならびに留意点】

2024年度研究紀要は、下記URLを打ち込んでいただくか、QRコードを読み取ることで、ご覧いただけます。目次の各実践や報告書の「タイトル」(巻頭言など)をクリックすると、そのページまでとぶことが可能です。また、各実践や報告書の最後のページの右下にある「目次へ」をクリックすると、目次へ戻ることも可能です。なお、児童の肖像権・著作権の観点から、限定公開となっておりますので、SNS等での発信はおやめください。

※ データをダウンロードする際、「ファイル名のみ」文字化けが発生することがあります。例としては、「古いiPhoneやiPad機種、またiOSバージョン等によりメーカー仕様による文字コードの扱いが異なっている」場合などです。その際は、アップデートをしていただくと改善する可能性があります。